

《本号の表紙絵》

鎌田玄台の容姿とその書

鎌田玄台は華岡青洲の高弟で、華岡流の麻醉法・外科を全国に広めた一人である。玄台は、1794年、伊予大洲に生まれた。18才の時、紀伊の華岡青洲の門に入り、青洲の下で学ぶこと5年、青洲も正澄の学業を歎称して「桂州」の号を与えたほど優秀であった。帰郷後、家業を継ぎ開業した。青洲から学んだ医術を応用して多くの難病を治療し、名声を挙げ、藩医に列せられた。青洲が亡くなった後に、西では鎌田玄台、東では本間玄調が青洲の傑出した門人と称された。玄台は鎖陰、鎖肛、尿道破裂など多くの手術を行ったが、なかでも乳癌や陰囊水腫の手術は最も得意であった。陰弧疝（陰囊ヘルニア）の手術は玄台が最初に実施した。彼は著述家としても数々の著作を残した。1837年（天保8年）には外科起廢図譜を著し（1840年に出版）、1839年（天保10年）には、麻沸湯論を、門弟の松岡肇に口述筆記させた。麻沸湯論はその後、外科起廢の第一巻の巻頭となり、1851年（嘉永4年）に出版された。1845年（弘化元年）に大洲で行った解剖を記録し、1846年（弘化2年）には解剖図として刊行した。しかし、いずれの著書も現存数はごくわずかで、現在まで本格的な研究はほとんどない。最近の研究で、麻醉科学史的に、玄台は2つの世界的な仕事をしたと考えられる。第一に、1839年に麻沸湯論を著した事で、これは世界で最初の臨床麻酔の教科書である。次に、世界で最も早い時期に全身麻酔下手術を図示した。この図は外科起廢図譜の中にある。

現在、玄台の書で「成美」以外のものは見つかっていない。「成美」、美を成すと読む。「論語」顔淵篇の一節「子曰く、君子は人の美を成す、人の悪を成さず、小人はこれに反す」に由来する。もう一つの図は外科起廢図譜の中で認めた玄台の容姿である。これまで、玄台の容姿として呉秀三著「華岡青洲と其の外科」の中の図が知られていたが、それは玄台の父親である初代鎌田明澄玄台の図が誤って伝えられたものである。伊予大洲では、初代明澄玄台から三代目新澄玄台のまで、すべて名医とされるが、一般に玄台といえば、青洲の弟子の二代目正澄玄台のことを指す。

（土手健太郎）